



K000
(情報科学)

2025年2月

『ぼくのたった一つのミス 1 SNS/AI編』

藤白 圭 作
中島 花野 絵
高橋 暁子 監修

(岩崎書店)

現代ではとても身近になったSNSやAIですが、使い方を間違えると、ゾッとするようなトラブルに巻き込まれることもあります。「自分は絶対に大丈夫！」というような事例から、「もしかすると自分も同じ間違いをしてしまうかもしれない」というような事例まで、たくさんのお話が紹介されていて、事例ごとに解説もついているので、自分が主人公だったらどうすれば良かったかを考えながら読むことができます。

実際に困った時にも役立つ情報が書かれていて、じっくり読みたくなる一冊です。



481-24
(一般動物学)

2024年4月

『海のへんな生きもの事典 ありえないほねなし』

ひとでちゃん 作
ワタナベ ケンイチ 絵

(山と溪谷社)

生きものには背骨があるのが常識だと思いませんか？実は、分類学では背骨のある動物は少数派です。動物界の多数派「ほねなし」は、海に多く生息し、多種多様な姿や生き方をしています。体の厚みが細胞3つ分しかないセンモウヒラムシ、姿も役割も違う2種類の子どもを産むニハイチュウなど、著者が愛をこめて紹介する「ほねなし」たちは、常識を超えた驚きや面白さに満ちています。この本を手にとったあなたも、読み終わる頃には「ほねなし」の魅力にハマること間違いなしです！

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎072-627-4129	畑田町1番51号
おにくる ぶつくばーく	☎072-622-2476	駅前三丁目9番45号 おにくる内
水尾図書館	☎072-637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎072-620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎072-620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

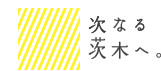
発行日：令和8年(2026年)3月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。



この印刷物は、10,000部作成し
1部あたりの単価は11.35円です。

令和8年(2026年) 春・夏号



茨木市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



おもしろい本 みつけた!

《中学生・高校生》

1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広くおもしろい本を紹介します。



★ホームページにも載っています。
気になる本を見つけたら、
さっそく探してみよう!



茨木市立図書館
おすすめ本のページ



748-24
(写真集)

2024年7月

『みたてのくみたて 見るだけでひらめくアイデアの本』

田中 達也 作

(ダイヤモンド社)

著者の田中さんは、ブロッコリーを木に、丸い黒縁メガネを自転車に、というように、身の回りにある日用品を別の何かに見立てて風景を作り、いろいろなシチュエーションの作品を創作されています。

この本では、ハンバーガーのバンズやコンタクトレンズの半円を傘に、唐揚げを紅葉する木に見立てるなど、尽きないアイデアを生み出す考え方や発想の秘訣を7つに分けて紹介しています。作品のタイトルがダジャレ風なものも楽しめます。



茨木市立図書館



Fーサハ
(小説)

2024年9月

『スターゲイザー』

佐原 ひかり 作

(集英社)

アイドル事務所「ユニバース」に所属し、デビューを目指す加地透は、先輩の退所をきっかけに、青春の全てを捧げるようなアイドルの活動に疑問を抱き始めます。そんな中で、同じく「ユニバース」に所属する持田良、和田遥歌、三苦葵、真田蓮司、若林優人の5人もデビューを目指して活動に励みますが、それぞれが抱える事情に悩まされています。

アイドルの卵である6人それぞれの視点で1章ずつ楽しむことができます。6人の抱える苦悩や個性が交わり、1歩ずつ前へ向かっていく様子に勇気をもらえます。



ニーアリ
(日本の小説)

2024年8月

『全校生徒ラジオ』

有沢 佳映 作

(講談社)

「全校生徒ラジオ」とは、全校生徒4人の中学校に通う、れなどん・橘・なつみ・モモが配信するポッドキャストです。映画や修学旅行、それぞれのあだ名の由来など4人が話したいテーマや、お悩み相談に答える会話が収録されています。

4人が自由に話す様子が横書きの会話文で表現されていて、ポッドキャストの会話の広がりそのまま楽しむことができます。仲良く個性豊かな4人のトークと、その裏でひっそり起きる変化にも注目です。



Fーสบ
(小説)

2025年4月

『すばらしき新式食 SFごはんアンソロジー』

新井 素子・須賀 しのぶ・榎野 道流

(集英社オレンジ文庫)

竹岡 葉月・青木 祐子・深緑 野分

(集英社)

辻村 七子・人間六度 作

人間に欠かせない「食」をテーマに書かれたSFアンソロジーです。食事は材料・作り方・見た目・味など、さまざまな要素から成り立ちますが、それらは未来の世界や別の星では、予想もしない違いを見せるかもしれません。

美味しいご飯が食べたいような話もあれば、食べ物を口にするのが少し怖くなってしまふような話もあります。短編小説なので一つ一つの話は短いです。個性豊かな著者たちが描く、先の読めないハラハラドキドキするSFの醍醐味を味わうことができます。



019-24
(読書)

2024年8月

『本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む』

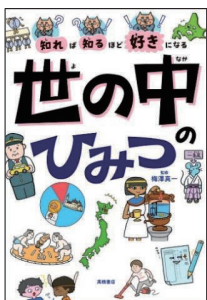
かまど 作

(大和書房)

みくのしん 作

今まで本を読んだことがないという(当時)32歳のみくのしんは、「どう読めばいいかわからない」と戸惑いながらも、「自由に読めばいいよ」と言うかまどにすすめられ、初めて小説に挑戦します。軽快なボケ・ツッコミのやり取りを混ぜえつつ、伴走するような二人の読書は、時にかまどや読者にも新しい発見を与えてくれます。

小説を読みなれた人も小説に苦手意識のある人も、エンターテインメントとして楽しく読める一冊です。



K300
(社会)

2024年11月

『知れば知るほど好きになる 世の中のひみつ』

梅澤 真一 監修

(高橋書店)

ポテトチップスがお客さんのクレームから生まれたことを知っていましたか？さまざまな人が、世の中をより良いものにしていくいろいろな工夫をしています。この本では、そうした工夫を「世の中のひみつ」としてわかりやすく紹介しています。

イラストが大きく、見開きで完結するので、ぱっと見てひみつを知ることができます。興味のあるところをパラパラみるだけでも楽しく、幅広いジャンルを収めた雑学集として、気軽に手に取りやすい本です。ぜひこれから、人に話したくなるお気に入りのひみつを見つけてください。



セーデイ
(外国の小説)

2025年5月

『消えたモナ・リザ』

ニコラス・デイ 作

(小学館)

千葉 茂樹 訳

ごく一部にしか知られていなかった「モナ・リザ」は、1911年にルーヴル美術館から盗まれたことをきっかけに、世界一有名な絵画になりました。この本は、レオナルド・ダ・ヴィンチや絵のモデルであるリザ・ゲラルディーニの人生にも触れつつ、盗難事件の裏で何が起こっていたのかを追っていきます。

「この物語は、勝手な思い込みや、推測などなしに、世界をありのままくつきりと見ることのたいせつさも教えてくれる。」と本文にあります。本を読み終えた後に、この言葉の意味が見えてくるはずですよ。